



子どもの育ちや学び（3つの資質・能力）

エピソード

A児とB児が、木の大型積み木の穴に顔を入れ、「あー」「おーい」と大きな声を出して遊んでいました。その様子を近くで見ていたC児も自然と一緒に遊び出します。しばらくすると、①「なんかこえがちがう」と、穴の中ではいつもの声と聞こえ方が違うと気づいたA児。すると、②近くにあったウレタンの大型積み木を取りに行き、穴の前に置いてもう一度大きな声を出しました。「おーい！あ、またこえがかわった！」とA児。それを隣で見ていた③B児とC児もウレタンの積み木を取りに行き、④木の積み木の前に置いて「おーい！ほんまや」「こえちがう」と3人で顔を見合わせてびっくりした表情を見せました。そのあとも、ウレタンの積み木を置いたり避けたりしながら声を出すことを繰り返し、聞こえる声の違いを楽しんでいた3人でした。

- ① 積み木の穴の中で声を出すことにより、自分の声の響きや違いに気付いています。

（知識や技能の基礎）

- ② 「なんか声がちがう」と不思議に思ったことで、音に対する興味が湧いてきています。また、ウレタン積み木を置いたり避けたりして音の違いを色々試すことで、探究心が育まれています。（学びに向かう力・人間性等）

- ③ 友達の「なんかちがう」の言葉を聞いて興味をもち、自分もやってみたいと思い始めています。（思考力、判断力、表現力の基礎）
（学びに向かう力、人間性等）

- ④ 友達と一緒に試しながら、不思議や気づきを共有することを楽しんでいます。

（学びに向かう力、人間性等）

保育者の思い

- ・自分の声の違いに気づき、不思議さや面白さを感じている姿を大切に见守りたいと思いました。
- ・友達と声が違うという発見を共有しながら、一緒に遊ぶ楽しさを感じてほしいと思いました。
- ・身近にある積み木を使ってひらめいたり試したりする経験を通して、考える力や探究心を育てたいと思いました。
- ・積み木で遊んでいる中で偶然起こったことからの気づきで、遊びが広がっていったことが嬉しかったと思います。

家庭だったら・・・

大人には当たり前のことが、子どもたちには大きな発見だったりします！ご家庭でも例えば、ラップの芯に口を近づけて声を出してみたり、耳をつけて音を聞いてみたりするなど、普段の音との違いや変化を、お子さんと一緒に見つけてみてくださいね。